

心を磨く



宮 司 宗 敬
背 古

今年、シンガーソングライターである植村花菜さんの「トイレの神様」という曲がヒットしました。私も「一体何だろう？」と思って聴いてみましたが、とても感動する曲でした。歌詞の一部をご紹介します。

トイレ掃除だけ苦手な私に
おばあちゃんがこう言った
トイレには それはそれはキレイな女神様が
いるんやで
だから毎日 キレイにしたら
女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで
その日から私はトイレをピカピカにし始めた
べっぴんさんに絶対なりたくて
毎日磨いてた・・・

植村さん自身の亡き祖母の教えや思い出を歌った曲で、私はこの歌に日本人の美徳を感じました。
トイレにも神様は存在致します。
廁神かわののみとも言いますが、埴山はにやま毘売命ひりめのみことという土の神様と水波能売神みずはのめのかみとい

う水の神様です。二柱とも女性の神様です。この歌でも「それはそれはキレイな女神様」とおばあちゃんおばあちゃんが植村さんに教えています。日本人は古来より、どんなところにも神様が宿ると信じてきました。玄関にも台所にもトイレにも神様がちゃんといらっしやるので掃除をして清浄を保つことを大事にしてきました。年末の大掃除も歳神様を清しく迎えるための風習です。神様は常に身近に存在し守って下されます。万物に神様が宿っているからこそ、物を粗末にせず、常に清浄を保つことを心がけてきたのが日本人の美徳の一つといえます。心も同じです。心を磨き清浄を保つことで神様のご加護を頂けるのです。心が汚れれば、またきれいに磨けば良いのです。人は軌道修正したい時、ふと神社へ足を運びたくなるものです。神社へ行くと自然と心が晴れ清すがすがしい気分になります。神社でのお祓いは心をきれいに磨くための行いいです。神道は「正直」という教えを大事にしております。心を清浄に保つには「正直」であることが大事です。他人にも自分にも嘘がない生き方を心がけたいものです。

神まさんぞりが知りたい

今回は七草粥のお話です。

正月七日は「七日正月」と呼ばれ、七草入りのお粥を食べる風習があります。この行事は、古くから伝わる五節句ごせつぐの一つ「人日の節句」にあたります。

◆五節句とは何でしょう？

人日（じんじつ）・・・正月七日
上巳（じょうし）・・・三月三日
端午（たんご）・・・五月五日
七夕（しちせき）・・・七月七日
重陽（ちやうよう）・・・九月九日
五節句とは、一年間の節目の日で、昔からこの日には、集落全体で農作業を休む習慣があったようです。

◆なぜ七草粥をたべるのか？

この日に薬草の入ったお粥を食べると、一年間無病息災で過ごせると云われ、江戸時代では武家の公式な祝日とされていきました。

◆七草とは？

芹（せり）、薺（なずな）、御形（ごぎよう）、繁縷（はこべら）、仏の座（ほとけのざ）、菘（すずな）
蘿蔔（すずしろ）です。

※正月七日は、皆さんも七草粥を食して体調を整えましょう。

◆浦幌町内神社のご紹介

留真神社

御祭神

天照皇大神

春季祭

四月十日

秋季祭（例祭）

九月十日



留真神社は、浦幌町留真地区の氏神様を祀る神社。明治三十八年に浦幌第四橋付近に祀られ、大正六年、中川北松氏によって現在地に移され、翌年に社殿が建設されました。



奉納された大注連縄

今年の四月十日には、(有)音更陸送運輸・長屋正美様、留真神社氏子一同より大注連縄が奉納された。